



園だより かけはし

キッドワールドこども園

令和7年9月1日

日が落ちるもの少しずつ早くなり、だんだんと秋の訪れを感じるようになりました。しかし、9月以降も厳しい暑さが予測されるので、気温や天候によって活動時間の調整や水分補給をこまめにおこなって、子どもたちの健康に気をつけていきたいと思います。

9月は、様々な遊びを計画しています。運動遊びでは、かけっこ、リレー、リズム遊び、ジャングルジム、的あてなど、繰り返し遊ぶことで体の使い方を覚えることや、できるようになるまで何度も挑戦したりする気持ちが持てる様に支えていきたいと思います。また、にじみ絵、スタンプ遊びでは、試したり、工夫したりする中で、自分の思いを表現していけるように関わっていききたいと思います。



行事予定

日	曜日	園児に関すること
1	月	避難訓練(シェイクアウト)
2	火	身体計測(2歳児めろん組、5歳児)
3	水	身体計測(2歳児ぶどう組、4歳児)
4	木	身体計測(3歳児)
8	月	身体計測(1歳児さくらんぼA組)
9	火	身体計測(1歳児さくらんぼB組)
16	火	視力検査(5歳児)
17	水	視力検査(4歳児)
18	木	健康診断、身体計測(0歳児)
19	金	視力検査(3歳児)
22	月	弁当日
25	木	誕生会

クラス担任について

9月より0歳児の園児が増えることから、めろん組担任の米丸 良子がいちご組Aクラスの担任になります。



職場体験について

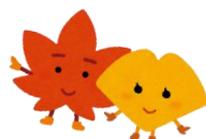
9月4日(木)、5日(金)に大分市立滝尾中学校の2年生が職場体験学習に来ます。

お知らせ・お願い



- ※ 9月のお弁当日は、22日(月)です。子どもさんが楽しみにしているの、忘れないようにお願いします。
- ※ 9月の保育料の納入期間は、24日(水)・25日(木)・26日(金)の3日間です。
(期限内に納入できない場合は、教頭の奥下までご相談ください。)
- ※ 運動会の日程をお知らせいたしますのでご確認をお願いします。

日時	年齢	場所
10月9日(木)	0歳児	キッドワールドこども園
10月15日(水)	1歳児	キッドワールドこども園
10月23日(木)	2歳児	キッドワールドこども園
11月1日(土)	3・4・5歳児	サイクルショップコダマ大洲アリーナ



子どもが見る大人の世界と大人の受け止め

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

幼い頃、「なんで大人はこんなことをいうんだろう」というような気持ちを抱いた記憶は、みなさんがもっているのではないのでしょうか。このように乳幼児期の子どもは、大人の様子をよく見ていて、そこから多くの情報を得て、大人のことを考えていますが、それだけでは、大人の世界が理解できない発達上の課題もあるのです。したがって、この年齢段階の子どもは、大人の世界をこのように見ているという子どもの世界の見方、見え方を身近で子どもと接して生活している大人である私たちは十分に子どもの世界を理解しておかなければなりません。今回は、そのような子どもが見る大人の世界のことを発達心理に基づいて考えていきたいと思います。

子どもは、生まれてすぐ乳児の段階から、すでに周りの大人の様子を顔の表情や視線を意識しながら見ていてさまざまな情報を受け取っているといえます。発達心理学者であるバロン・コーエン博士は、「子どもが社会性を身につけていく過程の中でもこのような人間の顔や視線の認知が特に重要である」といいます。

そこで、最初に、子どもたちが回りの世界の視覚的な情報をどのように認識していくのかということ年齢別に確認していきたいと思います。

◆ 0歳から1歳児

最初は、0歳から1歳までの乳児期の子どもです。

乳児期には周りの大人に愛され大切にされることで人間としての絆が深まり、情緒の安定や人への信頼感が育まれていきます。そして、目と目を合わせるアイコンタクトや肌と肌の触れ合うスキンシップで周りの大人の愛情を感じ取り、愛着を形成し、安心感を育てていきます。

その子どもたちが、3カ月を過ぎてくると回りの動くものに目をつけて、それを目で追いかける「追視」をするようになります。そして、他の人の視線を追って自分もそちらの方を見る「視線追従」ができるようになります。そして、人間の表情に対する興味・関心を持ち、周りの大人の視線や声、表情やジェスチャーを通じて相手の感情を読み取る能力が育ってきます。

その子どもたちが、7カ月を過ぎてくると人間の表情の理解はもっと進み、9カ月頃からは、周りの大人の考えている意図や、自分の考えている意思が少しずつ理解できるようになるといわれています。

◆ 1歳から3歳児

1歳になると子どもは、新しいものや初めて見るものがあると、その安全性などを確かめるために、周りの大人などの顔の表情や身体の動きを見て確かめる「社会的参照」ということが現れてきます。つまり、周りの大人の発する情報から私たちが生きている広い世界に対する知識をつけていくため、保護者や保育者など周りの大人が外界に対して向ける表情や態度なども、子どもたちに大きな影響を与えます。

◆ 3歳から5歳児

子どもたちは、生まれてから5歳頃までに、脳を中心とした神経系統の成長はだいたい80%くらいまでできあがり、6歳までには90%まで発達し、完成に近づいてきます。そして、5歳頃には、基本的な表情をしている絵を見せてみると、その絵の顔が怒っているのか、笑っているのか、悲しんでいるのかなどいった絵に出ている人間の表情から感情を十分に理解できるようになってきます。したがって、物語に出てくる主人公や登場人物の気持ちなど他者の感情経験を推測する能力も育ってきて、物語を楽しく豊かに読んだり聞いたりすることができるようになります。

◆ 6歳児以上の子ども

6歳を越えてくると子どもたちは、人は本当に感じている感情とは違った感情を表わすことがあるということを理解し認知できるようになるといわれています。したがって、6歳以前には見かけの表情などの外的要因が子どもの判断材料になっているので、表面的に人の感情を受け取ってしまう傾向があります。

これらの年齢特性を踏まえて、実際に子どもたちと接する際に気をつけたいポイントには、「子どもと目と目を合わせて話すこと」「子どもの目線に合わせて大人が目線高さを合わせて話すこと」「話しているときの目の表情として子どもが見ていることを意識すること」「喜怒哀楽の表情が子どもに伝わるように気を配ること」「表情と感情を一致させるように配慮すること」「子どもの目に入る場所で愚痴や人の悪口は言わない」などがありますが、今回は、紙面が足りなくなりましたので、次回に詳しく説明していきたいと思います。